



日進北小だより

令和4年6月1日 6月号 第3号
電話 048 (663) 1842 FAX 048 (663) 9884

<http://nisshinkita-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標：心身ともに健康で、自ら学び、自ら考え、判断し、行動できる子どもを育成する
～やる気を育む日進北小・授業が楽しい日進北小～



アサガオ

校長 平塚 信也

「校長先生、僕のアサガオ芽が出て双葉がでました。」「私のはまだ出ないんです。」などと1年生が毎日、悲喜こもごもな話しをしてくれます。そんな声を聞くと今年もアサガオの季節に近づいているのだなと実感します。すべての児童の植物が上手に育つことを願っていますが、たとえうまく育たなくてもそこから何かを学んでくれることを願っています。

小学校では植物を育てる学習がたくさんあります。今、学校にはたくさんの植木鉢があります。

1年生はアサガオ、2年生は野菜（なす、ミニトマト、ピーマン、シシトウ）、3年生はホウセンカ、4年生はヘチマです。高学年は自分で育てるわけではありませんが、他の学年の植物を借りて学習します。5年生はインゲン豆、ヘチマ、アサガオ、6年生はジャガイモやホウセンカで学習します。

なぜ1年生はアサガオを育てるのかをインターネットで調べてみました。たくさんの人から疑問が出されているようで簡単に答えは見つかりました。理由は①種まき、発芽から葉が増え、花が咲き、実となるという植物の成長課程が分かりやすいこと②水の量の調整ができなくても枯れにくく、丈夫なこと③高い確率で花が咲くこと④種が取れること（来年の1年生にプレゼントできます）などがあるそうです。ある校長先生が紹介されていた話ですが、雨の日でもアサガオに水をやっている1年生に「雨の日は水をやらなくてもよいのではないか」と聞いたら「校長先生、これはただの水ではないんだよ。愛情のこもった魔法の水なんだよ」と言ったそうです。なるほど水をやりすぎても枯れないほど強いので、心おきなく毎日水やりができるんですね。本当に1年生にぴったりです。

植物に心を寄せながら世話をし、それが成長につながる。しかし、毎日の世話をさぼると枯れてしまう。これほどすぐにやりがいを感じられる活動も少ないのではないのでしょうか。今日は花が咲くかなと、期待の目で日々成長する植物を見ることが学校にくるモチベーションにもなっています。先日は教室に入りたがらない児童に担任が「アサガオさんがかわいそうだからお水だけでもあげようか」と声をかけ教室に招き入れていました。

さいたま市では6月を「いじめ撲滅月間」としています。生き物を育てることを通じて優しさも育てたいと思います。今年の児童会のいじめ撲滅スローガンは『「ありがとう」伝えるうれしさわかち合おう』と決まりました。ありがとうの飛び交う学校にしていきます。今月もご支援ご協力をお願いいたします。



お願い 教室に入れない児童の為の「学習室」にいてくださるボランティアを募集しています。ご関心のある方、お知り合いの方がいらっしゃいましたらご連絡ください。048-663-1842

「お話朝会では「自分だけが正しいと思わないこと。」「正しいことほど優しく伝えること」を話しました。低学年には少し難しか彩湖道満公園に行ってみました。

いろんな国の人が遊びに来ているようでした。少子化の日本です。コロナが終息する前に外国人の観光客を呼び込まなくては観光業が成り立たないのです。どんどん多様化するしか生き残る道はありません。

ったかかもしれません。世界情勢を見ても正義と正義のぶつかり合いで争いは起こっています。そして何が正しいかは簡単に決められない世の中です。

昨日は3校親善バスケットボール大会でした。声を出しての応援ができない。雨のため待機時間が長いなどコロナ禍で大変なこともありましたがつばさ小、日進小、本校と楽しく試合をすることができました。バスケットでルールに従うことを学ぶ。ルールがあれば知らない人とも楽しく過ごすことができる。お互いの正義が食い違わない。

多様性ということはお互いの違いを認めるということ。トラブルを楽しむということいろいろな考えに刺激を受けて成長するということ。